

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株(日経平均)>



<米国株(NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2025/12/31 (前年末)	2026/9/30 (前月末)	2026/10/16 (前週末)	過去3年高値		過去3年安値	
日経平均	円	50,339.48	66,753.72	65,324.29	水準	2026/6/22	30,538.29	2023/10/30
NYダウ	ドル	48,063.29	50,906.05	52,002.41	水準	2026/8/5	32,327.20	2023/10/27
円/ドル	円	156.71	157.41	158.02	水準	2026/7/23	139.58	2024/9/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 米AI新興企業の信用に対する懸念の高まりなどを背景に、下落~

先週の日本株市場は、日経平均が▲3,706.63円(▲5.37%)、TOPIXが▲38.81ポイント(▲0.95%)となりました。米AI新興企業の信用に対する懸念の高まりなどを背景に、下落しました。業種別では、医薬品、保険業、輸送用機器など20業種が上昇した一方、非鉄金属、電気機器、金属製品など13業種が下落しました。

13日は、中国のメモリ企業が発表した半導体メモリの新技術を受けた競争激化が懸念され、半導体関連銘柄の重荷となったものの、銀行や商社などの銘柄に買いが集まり、上昇しました。14日は、オランダの半導体製造装置大手ASMLホールディングの7-9月期決算において、投資家の高い期待に対して売上高が市場予想並みにとどまったことを受け、AI・半導体関連銘柄に失望売りが広がり、反落しました。15日は、前日に発表された米CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回り、インフレの加速が示されたことに加え、AI関連のクラウドサービスを提供する米新興企業コアウィープ社の社債価格が急落したことを背景に、AI・半導体関連銘柄への売り圧力が強まり、続落しました。16日は、前日の米国株市場でハイテク株を中心に上昇したことや、半導体関連銘柄の比率が高いKOSPI(韓国総合株価指数)が大幅に上昇したことが好感され、3営業日ぶりに反発して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
10月19日	Mon	中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	9月	+5.3%
			小売売上高(年初来/前年比)	9月	+1.1%
		日本	GDP(国内総生産)成長率(前年比)	7-9月期	+4.3%
			第3次産業活動指数(前月比)	8月	+0.4%
10月20日	Tue	ドイツ	ZEW期待指数	10月	34.7
10月21日	Wed	米国	住宅着工件数	9月	+127.5万件
10月22日	Thu	日本	貿易収支	9月	▲1兆1,119億円
		欧州	消費者信頼感指数	10月	▲16.5
		米国	最先行指標総合指数	9月	▲0.1%
		日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	9月	+1.7%
10月23日	Fri	欧州	製造業PMI(購買担当者景気指数)	10月	52.9
			サービス業PMI	10月	53.0
		米国	製造業PMI	10月	55.9
			サービス業PMI	10月	58.8
決算発表予定 他	国内	決算発表	10/22 ディスコ 10/23 ファナック		
決算発表予定 他	海外	決算発表	10/20 MSGL、セネラル・エレクトリック、RTX、ノースロップ・グラマン、セネラル・モーターズ、ドイツ取引所、ネットフリックス、ユナイテッド 10/21 フィリップ・モリス・インターナショナル、AT&T、ムーディーズ、ネクステラ・エナジー、CMEグループ、SAP、IBM、ラムリサーチ、テキサス・インスツルメンツ、テスラ、メタ・プラットフォームズ 10/22 ノキア、バークレイズ、ハレロ・エナジー、スボ・ティファイ、ハネウェル・インターナショナル、ブラックストーン、コムキャスト、ロッキード・マーチン、プロクター・アンド・ギャンブル、ナスティック 10/23 ホルボ・カー、アメックス、紫金鉱業集団、インフォシス		

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ AI投資を巡る不透明感や中東情勢の緊迫化を背景に、上値の重い展開 ~

今週の日本株市場は、AI投資を巡る不透明感や中東情勢の緊迫化を背景に、上値の重い展開を想定します。

本日(10/19)は、先週末に米コアウィープ社の信用不安が再燃したことを受け、AI業界全体の資金調達を巡る不透明感が強まり、下落して始まっています。また、親イラン武装組織フーシ派によるサウジアラビアへの攻撃が激化し、原油価格が1バレル100ドルを超える水準となっていることから、しばらくは上値の重い展開が続くとみえます。一方、今週から米国ハイパースケーラーの2026年7-9月期決算の発表が始まります。足元ではAI関連企業の資金繰り不安が高まっていますが、決算発表を通じてAI・半導体の需給動向や資金調達状況などが確認できれば、市場は徐々に落ち着きを取り戻すとみています。足元の国内企業の決算は、夏場の天候不順の影響や中東情勢の悪化によるコスト高の影響などを背景に、小売業を中心にやや弱めのスタートとなっております。月末にかけて、期待度の高い半導体関連企業の決算発表を控える中、米国でのAI投資への懸念が後退し、来期業績への期待も維持されれば、日本株市場は再び上昇基調に転じると想定しています。その他の注目材料として、日本では21日の貿易収支、23日のCPI、米国では23日の製造業/非製造業PMI、ドイツでは20日のZEW期待指数などが挙げられます。

ALAMCO

朝日ライフ アセットマネジメント

URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等 : 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会 : 一般社団法人資産運用業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。))が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。